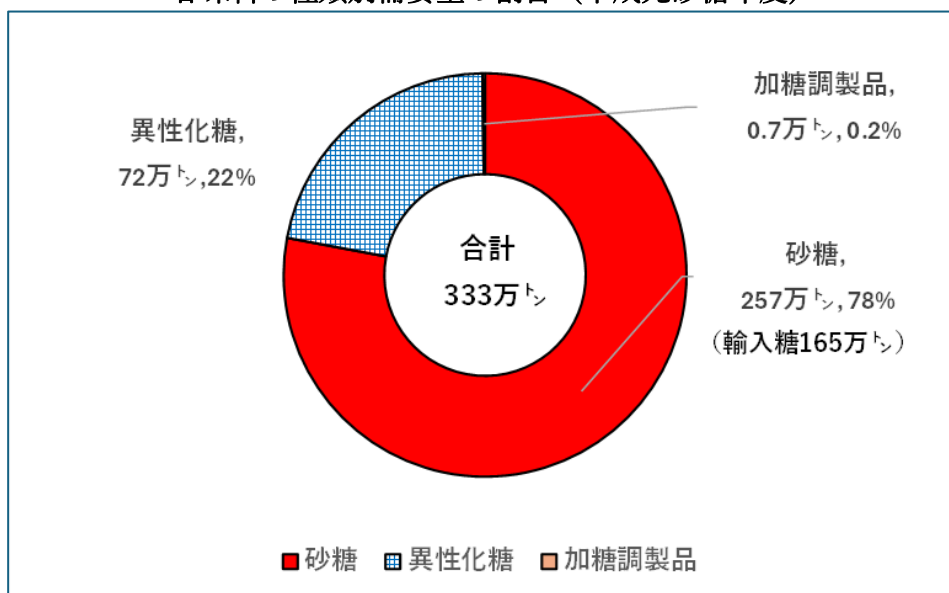


甘味料の種類別需要量の割合について

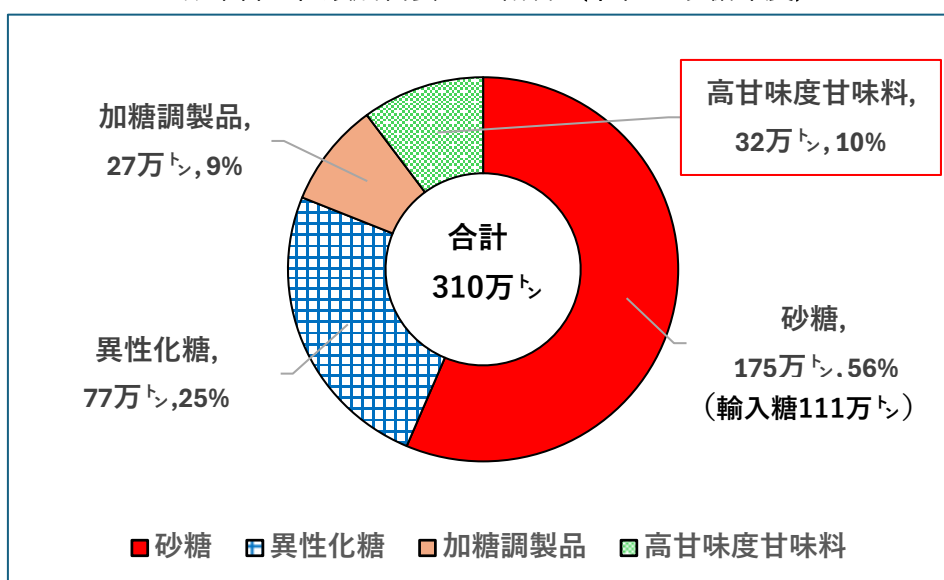
甘味料の需要量及びその割合について、農畜産業振興機構（alic）発行の「砂糖類・でん粉情報」2026 年 5 月号において掲載された記事「食品表示の今後の新たな役割～砂糖などの甘味料を例に～前編～」に、精糖工業会が入手した資料を加味して、平成元（1989）砂糖年度と令和 6（2024）砂糖年度で比較し、下記のように作成しました。

甘味料の種類別需要量の割合（平成元砂糖年度）



出典）農林水産省「砂糖及び異性化糖の需給見通し」

甘味料の種類別需要量の割合（令和 6 砂糖年度）



出典）農林水産省「令和 7 砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第 4 回）」
を元に精糖工業会作成。

注 1）高甘味度甘味料（アスパルテーム、スクラロース、アセスルファムカリウム）の数量は、令和 8 年 5 月 12 日の参議院農林水産委員会の審議において明らかになった 2024 年（令和 6 年 1 月～12 月）の輸入量（貿易統計上の秘匿処理分を含む）を砂糖換算して推計した数値。

注 2）砂糖年度とは、10 月～翌年の 9 月をいう。